秩父宮記念スポーツ博物館

展示基本計画

令和５年３月

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

目次

業務の目的..... 1

１．秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の背景

１－１．秩父宮記念スポーツ博物館・図書館について 2

１－２．当計画に至る経緯..... 5

１－３．博物館・図書館の概要 7

２．設置与件

２－１．新秩父宮ラグビー場（仮称）の立地..... 11

２－２．日本オリンピックミュージアムとの差別化の必要性..... 14

３．コンセプトの確認

３－１．コンセプトの再定義..... 16

３－２．整備方針の整理 17

３－３．当施設のターゲット 18

４．スポーツ博物館の事業活動

４－１．事業活動の考え方..... 19

４－２．各事業の概要..... 20

５．展示計画

５－１．展示の基本的な考え方 29

５－２．エントランス..... 29

５－３．オープンギャラリー 29

５－４．展示スペース..... 31

６．管理運営計画

６－１．管理運営の基本的な考え方..... 35

６－２．運営組織、体制 36

６－３．各諸室の運用イメージ 37

６－４．開館期間等..... 38

目的

「スポーツ博物館将来構想」におけるコンセプトを土台に、現状の設置与件にあわせて整備方針の再整理を行い、「新秩父宮記念スポーツ博物館（仮称）展示基本計画」策定へのスムーズな移行につなげるため検討を続けてきました。

これまでの検討をもとに、建築設計の具体化を踏まえて、「秩父宮記念スポーツ博物館（仮称）展示基本計画」についてとりまとめを行います。 以下、P.1～10 では秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の背景・概要、これまでの計画経緯等について再掲し、展示基本設計の前提を整理します。

出典資料

・「スポーツ博物館将来構想」平成 31 年 3 月
・スポーツ博物館将来構想検討会議資料
　「スポーツ博物館・図書館の概要」、「本検討会議の設置までのスポーツ博物館に関する動向」
・「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館資料収集方針」2021 年 3 月 30 日
・「新秩父宮ラグビー場　（仮称）基本計画」令和 3 年 6 月
・「新秩父宮ラグビー場　（仮称）整備・運営等事業 業務要求水準書」（令和 4 年 4 月変更版）
・「スポーツ博物館要求水準書」（令和 4 年 3 月変更版）

１．秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の背景

１－１．秩父宮記念スポーツ博物館・図書館について

（１）設立

秩父宮記念スポーツ博物館は、「スポーツの宮様」として親しまれ、20 世紀前半の日本のスポーツ振興に多大な功績を残された秩父宮雍仁殿下（昭和天皇の弟君）を記念するために、我が国唯一のスポーツ総合博物館として、1959 年、国立競技場の施設内に開設しました。スポーツの歴史・文化等を研究する方々のための、スポーツに関する図書・雑誌を揃えた図書館も同時期、同施設内に設置されています。

秩父宮家からは秩父宮雄仁親王殿下が愛用されていたスポーツ用具や調度品、秩父宮親王殿下関係資料（ラグビー群像など）などが寄贈されました。

当施設では、そのような資料を中心に、日本のスポーツの歴史、古代オリンピックから近代オリンピックへの変遷や我が国とオリンピックの関わりを示す貴重な資料の収集・保存・公開を中心に、スポーツ振興に関わる様々な活動を行っています。

（２）設置者

秩父宮記念スポーツ博物館は JAPAN SPORT COUNCIL 日本スポーツ振興センター（ＪＳＣ）によって設置・運営されています。

① ＪＳＣの基本理念・ビジョン

基本理念

ＪＳＣは、スポーツの推進と人々の健全な発達、 健康で豊かな生活を実現し、 公正で活力ある地域・社会、 平和と友好に満ちた世界に貢献します。

ビジョン

コーポレート・メッセージ「未来を育てよう、スポーツの力で。」

JSC が考える「スポーツの力」とは、

・スポーツに親しむことで手に入れることができる心と身体の元気の力。

・トップアスリートの輝く姿を通して胸に沸き上がる夢や憧れ、そして感動の力。

・ 安心して学校生活を送ることで育まれる子どもたちの明日への力。

これらの力は、すべての人にとって、限りない可能性のある未来を育てる力です。ＪＳＣは、「スポーツの力」で、元気や感動、明日への力にあふれた日本を実現し、限りない可能性のある未来を、国民の皆様と一緒に育てます。

（引用：日本スポーツ振興センターホームページ https://www.jpnsport.go.jp/より）

② ＪＳＣの業務

独立行政法人日本スポーツ振興センターは、我が国におけるスポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図るための中核的・専門的機関として、その目的・役割を常に認識し、次の業務を行っています。

・スポーツ施設の運営及びスポーツの普及・振興に関する業務
・災害共済給付及び学校安全支援業務
・国際競技力向上のための研究・支援等に関する業務
・スポーツ・インテグリティの保護・強化に関する業務
・スポーツ振興投票等業務
・スポーツ振興のための助成業務
・日本のスポーツ情報機能の強化に関する業務
・登山に関する指導者養成及び調査研究業務
・スポーツ博物館・図書館の管理・運営業務
・関係機関との連携・協働に関する取組
・受託業務

（引用：日本スポーツ振興センターホームページ https://www.jpnsport.go.jp/より）

（3）設置目的

秩父宮記念スポーツ博物館は秩父宮殿下のご功績を記念するとともに、スポーツの振興に資するために開設されました。スポーツ振興が求められる背景と振興によって伝えたい事柄について、以下に記載します。

① 国民のスポーツ離れ

・国民のスポーツ実施率において長年女性や働き盛りの層の実施率が低い

（「平成 28 年度スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁、2016 年）によると、成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は 42.5%（30 代女性 27.7%）である。）

・スポーツが嫌いな層が少なからず存在する

（「平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（スポーツ庁、2018 年）によると、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対し、「嫌い・やや嫌い」と答えている中学 2 年生女子の割合は 21.3%である。）

② スポーツの価値を正しく伝えることの必要性

・スポーツは、心身ともに健やかな人間を育て、人々に大きな生きがいをもたらすなどの個人的な恩恵だけでなく、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成、経済・地域の活性化や国際交流を通じた相互理解などの社会的な恩恵をもたらすなど、多様な価値を有するが、このことへの理解が不十分であると考えられる。

・これまでの検討会議における議論の中で、スポーツは、「遊びなどの身体活動や教育としての体育から、民俗的・伝統的なスポーツや近代スポーツまで多様で幅広い活動が含まれるものである。」、「過去から現在、そして未来にわたり変化をし続けているものである。」といった意見があり、スポーツを幅広い視点で捉えることの必要性も挙げられた。

③ スポーツ・インテグリティの推進の必要性

・我が国のスポーツ界においては、近年、ドーピング、パワーハラスメント、暴力行為、スポーツ団体のガバナンスの欠如などの問題が表出している。

・このような問題の一側面には、結果を求める中での行き過ぎた勝利至上主義に象徴されるように、スポーツの価値の特定の面だけが強調されるあまり、スポーツの多様な価値が見失われているあるいは十分理解されていないことが背景にあると考えられる。

・スポーツの価値・意義を正しく伝えることで、スポーツ・インテグリティを推進していくことが当施設の目的のひとつである。

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

１－２．当計画に至る経緯

秩父宮記念スポーツ博物館が開設されてから現在に至るまでの流れを以下にまとめます。

年月	計画等	概要
1959（昭和 34）年	秩父宮記念スポーツ博物館開設	国立競技場内にスポーツ図書館と併せて設置される。
2012（平成 24）年 1 月	新国立競技場将来構想有識者会議	国立競技場の老朽化に伴い、新しい国立競技場の将来構想を検討。リニューアル後の国立競技場に求められる要件のうち、スポーツ振興機能として、スポーツ博物館・図書館等を整備することが了承される。
2012（平成 24）年 11 月	新秩父宮記念スポーツ博物館・図書館（仮称）基本構想	新しい国立競技場内に、スポーツ博物館及び図書館を整備することが決定した。
2013（平成 25）年	秩父宮記念スポーツ博物館・図書館整備基本計画	リニューアルに際し、博物館・図書館の基本的な考え方と施設計画について検討を行った。
2014（平成 26）年 5 月	一時休館及び綾瀬倉庫への移転	新国立競技場を整備に伴い、博物館・図書館を一時休館し、足立区綾瀬に倉庫を借りて移転を行った。
2015（平成 27）年 ３月	新秩父宮記念スポーツ博物館・図書館（仮称）展示基本設計	新博物館・図書館の展示構成・ゾーニング、体験アイテム・フロー等の検討を行った。
2015（平成 27）年 7 月	新国立競技場整備計画の白紙撤回に伴う移転計画の廃止	新しい整備計画では、新国立競技場の施設については「原則として競技機能に限定する」とともに、「スポーツ博物館等のスポーツ振興を目的とした施設は設置しない。」とされたため、移転先が未定となる。（秩父宮雍仁親王殿下の御遺品は、新国立競技場に保存することも明記された。）
2018（平成 30）年 12 月	スポーツ博物館将来構想検討会議 審議のまとめ	スポーツ博物館や図書館の今後の在り方について、その機能や役割など具体的な取組を進めるために設けられた検討会議。検討結果として導かれたコンセプトは、「スポーツの多様な価値を伝えるネットワークの拠点」－スポーツの多様な価値（人生や社会を変える“力”、未来を創る“可能性”）を発信－。

年月	計画等	概要
2019（平成 31）年 3 月	スポーツ博物館将来構想	検討会議の「審議のまとめ」を踏まえ、同スポーツ博物館の機能や役割、具体的な取組のイメージ等について、JSC としての基本的な方向性及び目標とすべき将来像をまとめた。
2021（令和３）年 3 月	スポーツ博物館・図書館資料収集方針	貴重な資料の散逸等を防ぐとともに、これまでのコレクションの整備を図りながら再開館に向けた準備を進めるため、博物館・図書館共通のものとして当方針を作成した。
2021（令和３）年 ６月	新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画	世界に誇れるスポーツクラスターの形成の実現に資するための新秩父宮ラグビー場（仮称）の整備計画。文化交流施設としてスポーツミュージアムをスタジアム内に設置すること、全天候型のラグビー専用スタジアムとすること、ＰＦＩ事業により整備すること等が明記された。
2022（令和４）年 １月	新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業　業務要求水準書	ＰＦＩ事業による整備を行うため、スポーツ博物館の事業内容や施設整備・運営・維持管理等の基準を定めた業務要求水準書を作成した。
2022（令和４）年 １月	新国立競技場内への秩父宮記念ギャラリーの設置	

（参考：スポーツ博物館将来構想検討会議資料　本検討会議の設置までのスポーツ博物館に関する動向）

１－３．博物館・図書館の概要

（１）国立競技場に設置された博物館・図書館の概要

初期の国立競技場内に設置されていた秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の概要について、以下にまとめます。

開館	昭和 34（1959）年 1 月～平成 26（2014）年 5 月	
場所	国立競技場内	
規模	2,169 ㎡	
累計来場者	800 万人(昭和 34 年～平成 26 年)	
直近の平均入場者数	年約 12,000 人（平成 20～25 年） ※H25.9 のオリパラ開催決定後入場者急増	
開館時間	9:30～16:30（入館受付 16:00 まで）	
休館日	博物館は第 2・第 4 火曜日 年末年始、他に 2 週間 図書館は土・日・祝日 年末年始、他に 2 週間	
入館料	一般 300 円 高校生以下 100 円 団体（20 名以上）一般 200 円 高校生以下 50 円 図書館は入館無料	
主な収蔵品・蔵書	博物館	約 6 万件 秩父宮雍仁親王殿下関係資料、オリンピック関係資料、日本のスポーツ史（明治期～現代）
	図書館	約 16 万冊 江戸後期、明治期大正期の貴重書 歴代オリンピック大会報告書、競技団体機関紙など
主な展覧会や活動	常設展に加え企画展を実施	スポーツと映像／全国スポーツ写真コンクール展／SAYONARA 国立競技場展
	シンポジウム	「スポーツ文化調査研究協力事業」 （シンポジウム 2009 年 2 月 7 日、雑誌発刊）
	イベント	国立競技場スタジアムツアー

（参考：スポーツ博物館将来構想検討会議資料　スポーツ博物館・図書館の概要より）

（２）綾瀬倉庫移転後の概要

新国立競技場の建て替えに伴い、足立区綾瀬の倉庫を借り上げ、平成 26 年 6 月に博物館及び図書館資料が移転されました。こちらの倉庫では展示機能は持たず、収蔵機能に特化し、再開館に向けて資料の整理を行っています。展示公開に関しては、文化庁の補助事業（平成 27 年度～29 年度）を活用した巡回展の実施や、貸出による他館等への協力を行っており、図書館については、平成 26 年 9 月から事前予約の上、閲覧・複写サービスを行ってきました。（※平成 30 年度から船橋倉庫への移転まで貸出、閲覧サービスは休止しました。）

概要は以下の通りです。

開館	平成 26（2014）年 6 月～令和 4 年 3 月	
場所	足立区綾瀬	
規模	1,712 ㎡	
主な展覧会や活動	巡回展	2020 年オリンピック・パラリンピックがやってくる（文化庁補助事業） 平成 27 年度～29 年度　10 か所 合計来場者数 約 65,000 人 ※三重県総合博物館、岩手県立博物館、東北歴史博物館等 ※その他、展覧会の実績は別表参照
	シンポジウム	「これからのスポーツ博物館のあり方について」（文化庁補助事業 2015 年 10 月 10 日）
	資料貸出	平成 26 年度～平成 29 年度　60 件 約 900 点 年平均 225 点 ※長崎国体、警察博物館、わかやまスポーツ伝承館、江戸東京博物館、北海道博物館、立山博物館、早稲田大学等
	図書閲覧等サービス	平成 26 年度～平成 29 年度 利用者数 約 100 人 年平均 25 人 利用冊数 約 2,500 冊 年平均 600 冊 レファレンス回答数 約 300 回 年平均 75 回
	資料整理	データリスト化など既存資料の整理の実施

（参考：スポーツ博物館将来構想検討会議資料　スポーツ博物館・図書館の概要より）

【綾瀬倉庫移転後の展覧会一覧（※代表的な展覧会のみを掲載）】

展覧会名	会期	会場	主催
東京オリンピック・パラリンピック開催 50 年記念特別展「東京オリンピックと新幹線」	2014 年 09 月 30 日―11 月 16 日	東京都江戸東京博物館	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、東映、読売新聞社、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会
オリンピック・パラリンピック特別企画展「The World of Sports」	2015 年 10 月 06 日―11 月 08 日	パナソニックセンター東京	パナソニック株式会社
企画展示「身体をめぐる商品史」	2016 年 10 月 18 日―12 月 18 日	国立歴史民俗博物館	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
ジャパン-ネス　Japan-ness 1945 年以降の日本の建築と都市計画	2017 年 09 月 09 日―2018 年 01 月 08 日	ポンピドゥ・センター・メッス	国際交流基金・ ポンピドゥ・センター・メッス
特別企画展「宮様、山へ―大正期登山ブームのなかの皇族登山―」	2017 年 10 月 21 日―11 月 26 日	富山県［立山博物館］	富山県［立山博物館］
2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催記念展―秩父宮記念スポーツ博物館所蔵品と新潟県ゆかりの選手たち―	2018 年 01 月 18 日―2019 年 03 月 24 日	池田記念美術館	公益財団法人池田記念スポーツ文化財団
特別企画展「日本のオリンピック・パラリンピック～大会を支えた人々～」	2019 年 03 月 16 日―05 月 06 日	昭和館	昭和館（厚生労働省委託事業）
特別展「江戸のスポーツと東京オリンピック」	2019 年 07 月 06 日―08 月 25 日	東京都江戸東京博物館	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、読売新聞社、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

展覧会名	会期	会場	主催
迎賓館赤坂離宮特別展「１９６４年東京オリンピックが作られた場所～歴史と写真展～」	2020 年 01 月 16 日―03 月 10 日（当初）	迎賓館赤坂離宮	内閣府迎賓館
東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」	2021 年 07 月 13 日―09 月 20 日	東京国立博物館（平成館）	東京国立博物館、秩父宮記念スポーツ博物館、読売新聞社
Tokyo 1964: Designing Tomorrow　東京 1964: 明日へのデザイン 展	2021 年 08 月 05 日―11 月 07 日	ジャパン・ハウス ロンドン	ジャパン・ハウス ロンドン、秩父宮記念スポーツ博物館

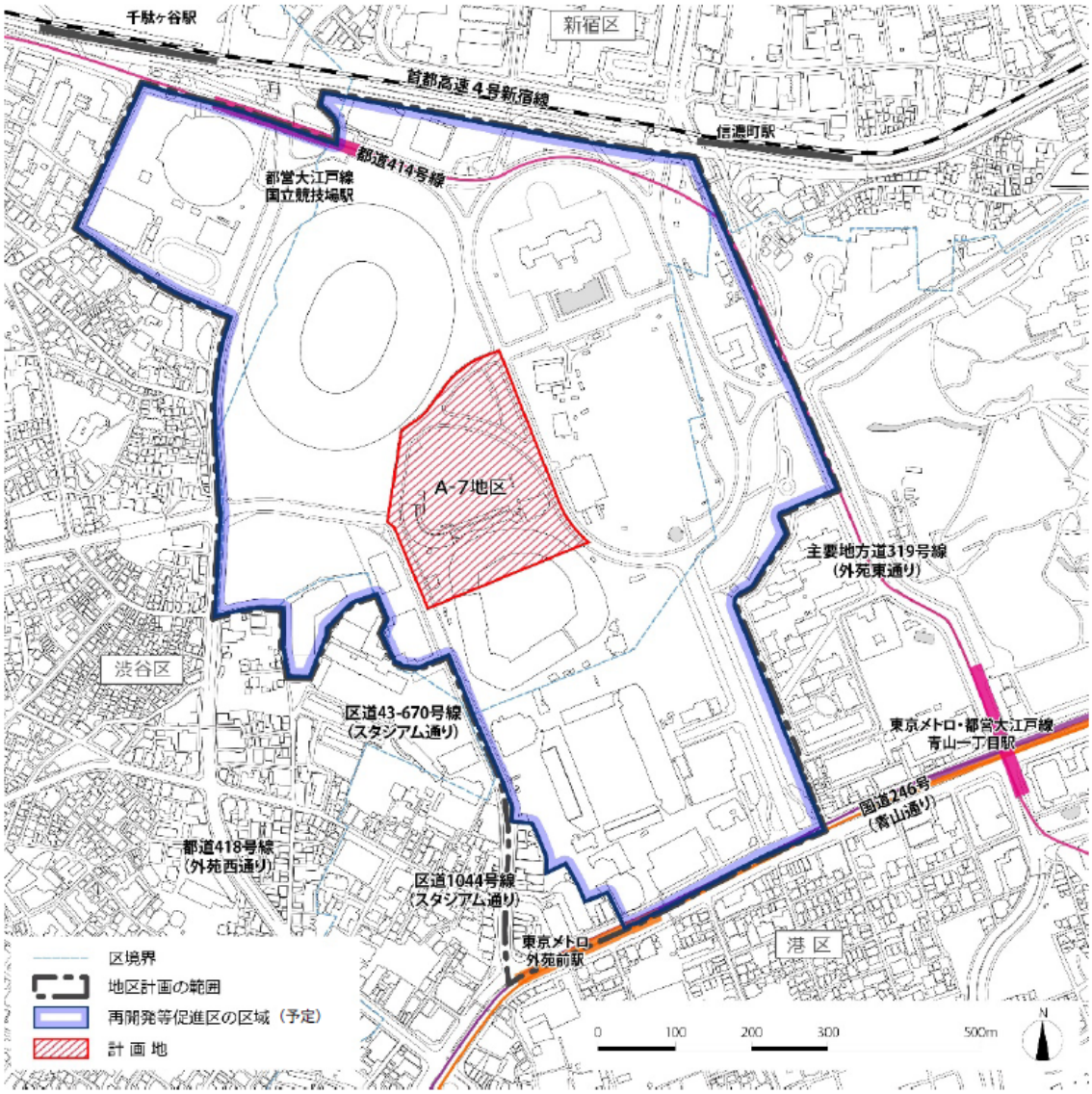
２．設置与件

２－１．新秩父宮ラグビー場（仮称）の立地

（１）スポーツ博物館の位置

新秩父宮ラグビー場（仮称）は、現位置より北側に移転して整備する予定で進められています。計画地は新宿区に位置し、国立競技場に面しており、敷地面積は約 43,500 ㎡となっています。また、計画地を含む神宮外苑地区は、国立競技場をはじめとした日本を代表するスポーツ施設やその関連施設が多く集積し、国民がスポーツに親しむ一大拠点形成しています。

スポーツ博物館は、新秩父宮ラグビー場（仮称）内に設置される予定です。



施設所在地　東京都新宿区霞ヶ丘町３番２号

※新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画より転載

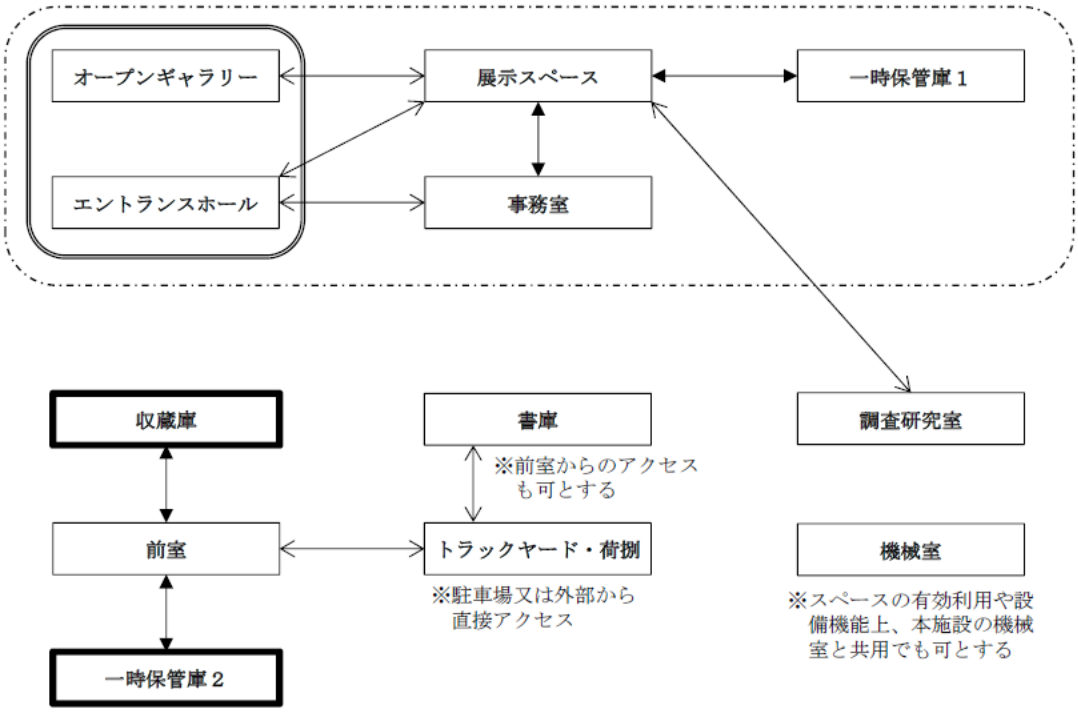
（２）スポーツ博物館の諸室面積及び諸室位置関連図

令和４年度の新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業の民間事業者募集時にまとめられた「スポーツ博物館要求水準書」添付資料３に掲載された各室性能表に基づく諸室面積及び諸室の位置関連図は下記の通りです。

【諸室面積】

室　名	面積（㎡）
エントランスホール、風除室、階段室、 EV ホール/管理廊下、トイレ	480（参考面積）
オープンギャラリー	135
展示スペース	310
調査研究室	80
事務室	80
収蔵庫	500
書庫	200
一時保管庫 1	35
前室	15
一時保管庫 2	50
空調機械室、消火ガス設備室	300（参考面積）
荷捌き・トラックヤード	75

【諸室位置関連図】



凡例

←→	隣接	原則隣り合い、直接の扉によって行き来できる室関係を示す。
←→	近接	動線が可能な限り短いこと、廊下・階段等を介して容易に行き来できる室関係を示す。
	同一階に設置する室を示す。	
	壁を設けず一体とする室を示す。	
	廊下から直接出入りしない室を示す。	

２－2. 日本オリンピックミュージアムとの差別化の必要性

同じ神宮外苑スポーツクラスター内に位置する日本オリンピックミュージアムとの棲み分け、連携の視点も重要と考えられます。ミュージアムの概要は以下の通り、令和３年度の検討より再掲します。

ミュージアムの概要	「みんなのオリンピックミュージアム」をコンセプトに、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）とアスリート、来館者と共に創り上げる**「日本のオリンピック・ムーブメントの発信拠点」**。
展示室	**【1F　WELCOME AREA】** **さまざまな視点でオリンピック・ムーブメントを発信するエリア。** ■WELCOME VISION オリンピックの世界観を鮮やかに描く映像で、みなさまをお出迎え。 ■WELCOME SALON さまざまな企画展やイベントを開催。 ■OLYMPIC STUDY CENTER オリンピックに関する教育や研究の拠点。　等 **【2F　EXHIBITION AREA】** **オリンピックを知る、学ぶ、感じる、挑戦する、考えるエリア。** ■イントロダクション 「オリンピックってなんだろう？」大会の起源から、人類最大の祭典になるまでのストーリーを学ぶ。 ■世界とオリンピック オリンピックが世界とどのように関係してきたかを歴史をふまえながら、さまざまな視点で知る。 ■オリンピックシアター オリンピアンの躍動や開会式の感動を、臨場感あふれる映像と音響で体感。 ■日本とオリンピック 日本人の挑戦にスポットをあて、日本がオリンピックに与えた影響を学ぶ。 ■オリンピックゲームス 競技に共通する動きを体験し、オリンピアンの身体能力に挑戦。 ■オリンピズムストーリー オリンピアンのインタビューやエピソードから、それぞれの考え方や生き方に触れ、オリンピズムについて考える。 ■パラリンピック 歴史や理念、その競技を知ることで、パラリンピックへの理解を深める。 ■オリンピックビレッジ 選手たちが滞在するオリンピックビレッジを紹介。

	■みんなでつくるオリンピック 「大会ボランティア」「アントラージュ」「大会をつくる人」「大会を運営する人」…　オリンピックを支える人たちを知る。 ■エンディング 「あなたにとってオリンピックとは？」その答えに思いを巡らせる。 【MONUMENT AREA】 **オリンピック・ムーブメントを体験し、レガシーを継承する広場。** オリンピックシンボルや聖火台のモニュメントや彫像などが設置されている。
開館時間	営業時間：10:00～17:00（最終受付 16：30）
休館日	月曜日（月曜が祝日または休日の場合、翌平日休館）他、年末年始及び展示替期間等
料金	【一般】500 円 【シニア 65 歳以上】400 円（要証明） 【団体 20 名以上】400 円（要事前予約） 【高校生以下】無料（要学生証）

（出典：日本オリンピックミュージアム公式ホームページ https://japan-olympicmuseum.jp/jp/）

３．コンセプトの確認

３－１．コンセプトの再定義

令和３年度の検討において、これまでの計画・構想等で述べられたコンセプト及び新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業の民間事業者募集時にまとめられた「スポーツ博物館要求水準署」に掲げられたコンセプトを踏まえて、以下の通り当施設のコンセプトを再定義しています。

【新秩父宮記念スポーツ博物館・図書館のコンセプト】

日本で唯一の総合スポーツ博物館・図書館として、
スポーツの多様な価値を伝え、スポーツ及びスポーツ文化の振興に寄与する、
スポーツ ネットワーク拠点

情報発信機能	資料収集・保存・継承機能	ネットワーク拠点機能
スポーツを身近に感じられるしかけを通して、スポーツの魅力や多様な価値を国民に伝える	スポーツ関連資料の収集･保存を行い、スポーツ文化の魅力を次世代に継承する	スポーツ文化のナショナルセンターとして、国内外のスポーツ関連施設をつなぐ

すべての人がスポーツを日常的に楽しむ社会へ

３－2. 整備方針の整理

P.12 に記載の通り、スポーツ博物館の展示スペース約 310 ㎡において常設展示、企画展示を運用していくことになります。

スポーツの多様な価値を伝えるため、これまでの計画・検討等の方針を踏まえると共に、一定の面積内でどのように常設展示、企画展示を行うかについては、これまでにない新しい視点から検討する必要があります。

方針１　スポーツの多様な価値を伝えるため、新たな展示スタイルにより多様な切り口で展開するスポーツ博物館

多様な切り口での展示を実現するため、更新しやすい展示ユニットを導入し、常設展示と企画展示が融合した新たな展示スタイルで展開します。多様なテーマでの展示やイベントの開催等により、スポーツに興味のない層の取り込みも目指します。年齢、性別、障害の有無を問わず、誰もがスポーツを楽しめる博物館とします。

方針２　これまで蓄積してきた豊富な資料・情報の活用と、さらなる収集

日本のスポーツ黎明期からの豊富な資料や、図書館の豊富な蔵書・文献資料を活用するとともに、新しいスポーツの紹介など、未来に向けてスポーツと人々の新しい絆を育む拠点としての機能を担います。

方針３　スポーツ振興の拠点として、施設外にも活動を拡げるとともに、積極的に情報発信を行う、動的なスポーツ博物館

国内外の博物館・図書館への資料貸し出しによる巡回展の実施や出張授業等のアウトリーチ活動、web ミュージアムによる発信、SNS によるコミュニケーション創出などの活動を通して、スポーツ関連施設とのネットワークを構築・強化し、スポーツ振興の動きをリードします。

方針４　神宮外苑スポーツクラスター内の施設との連携と棲み分け、日本を代表するスポーツ博物館として国内外と広く連携

新秩父宮ラグビー場（仮称）をはじめとした、神宮外苑スポーツクラスター内の施設との連携で、相互に魅力を高め合うとともに、近隣に立地する日本オリンピックミュージアムとの差別化にも配慮します。国内外のオリンピックミュージアムやスポーツ関連ミュージアムとの連携により、日本全国にスポーツの価値を広めていきます。

３－3. 当施設のターゲット

各ターゲット像について下記の通り整理します。

中でも、東京を訪れる修学旅行の学校団体、インバウンド観光客をボリュームゾーンとして位置づけ、日本オリンピックミュージアムとの回遊が期待されることから、これらの層の取り込みを図ります。

ターゲット		特徴	求められるポイント
個人客	一般	スポーツへの関心が低く、知識が少ない	・楽しみながらスポーツを学べる ・サブカルチャーとのコラボレーションなど、スポーツにあまり興味がない層も取り込む企画の実施
	スポーツファン	スポーツへ関心が高く、知識が豊富	・コアなファンに嬉しい展示 ・ここでしか得られない体験 ・展示に参加してもらう仕組み
	ラグビー場観戦客	観戦の前後に立ち寄る	・家族や友人といっしょに楽しめる ・ラグビーについての展示がある
団体客	学校団体	社会見学や修学旅行での来館。団体内で、スポーツへの興味の深度に差がある。	・興味の深さに応じて誰でも満足感が得られる柔軟性のある展示 ・子どもたちを飽きさせない仕掛け ・学校の授業と連動しつつ、学校では得られない学びを提供 ・団体で来ても展示をスムーズに鑑賞できる動線等の計画
	観光客	国内旅行客や海外旅行客など、国籍や人数、興味の深度に差がある。	・言語や文化の違いをカバーする展示解説 ・興味の深さに応じて誰でも満足感が得られる柔軟性のある展示 ・サブカルチャーとのコラボレーションなど、日本独自のスポーツに焦点を当てた展示 ・地域におけるスポーツ拠点の紹介等、体験を持ち帰り、継続してもらえるしかけ

４．スポーツ博物館の事業活動

４－１．事業活動の考え方

これまでの計画・検討を踏まえて、スポーツ博物館・図書館は下記の事業項目に沿って活動を行うものとします。

■展示・公開事業
常設展示及び企画展における所蔵資料等の公開

■収集・保存事業
スポーツに関する様々な資料の収集及び保存

■資料活用事業
巡回展の実施や web コンテンツ提供等、所蔵資料等を活用した情報発信

■調査・研究事業
スポーツの歴史や技術、科学や文化、人物などに関する多様なテーマの調査・研究

■図書館事業
スポーツに関する図書資料の収集・保存、利用者の閲覧サービス等の実施

■教育普及・交流事業
生涯学習の支援、学校団体等の学習支援、交流促進等

■連携事業・国際交流事業
神宮外苑スポーツクラスター内の施設として、スポーツに関する拠点性の発揮

４－２．各事業の概要

令和３年度の検討においては、これまでの計画を踏まえて以下のようにまとめており、内容を再掲します。

■展示・公開事業

【展示・公開事業の基本方針】

①スポーツの魅力を満喫できる展示構成

基本構想に掲げられる展示テーマ案を基に、スポーツの魅力を臨場感高く、楽しく探求・体験し、理解を深めることで、スポーツの今・未来を展望できるような構成を計画する。

②実物資料と体験を楽しめる展示手法

スポーツ選手の功績を多様に物語る実物資料と、スポーツの楽しさを体験できる展示手法を計画する。

③資料の保存に配慮した展示環境の整備

多様な資料の素材特性に配慮した展示環境を計画する。

④いつ訪れても新しい感動がある更新型展示

数多くの収蔵資料を最大限に活用し、内容を柔軟に入れ替えられる、更新性が高い展示を計画する。

⑤スポーツに関する多様なテーマを紹介する企画展示の開催

秩父宮ラグビー場の開催行事内容や、調査・研究事業の成果などを基に、多様なテーマ・規模の企画展示を開催する。大型企画展示を開催する可能性を想定し、常設展示室の一部を合わせて活用できるようにする。

【展示の考え方】

常設展示：スポーツの基本的・普遍的な価値や、スポーツの価値の多様性について伝える

企画展示：特定のテーマ（特に他分野との関わり）を取り上げながら、より深く詳細にスポーツの価値を伝える（一定期間で展示替えを実施）

協賛展示（特別展示）：民間企業の発想やノウハウ、最新のテクノロジーなどを活用した魅力ある展示を通してスポーツの価値を伝える

【展示手法の考え方】

・実際にモノに触れたりして「体感」（例えば映像や体験型の展示）することのできる展示
・スポーツを題材にした映画やマンガ・アニメ等に関する展示
・VR（バーチャルリアリティ）等の最新技術を活用した参加体験型展示
・障がい者が楽しめることも含め、ユニバーサルデザインに配慮した展示

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

■収集・保存事業

【収集すべき資料】
・日本におけるスポーツ及び競技の発展を示すもの
・日本におけるスポーツと社会とのつながりやスポーツ文化の拡がりを示すもの
・日本のスポーツ研究（スポーツ史、スポーツ科学、体育・スポーツ教育など）及び競技の理解のために欠くことができないもの

【具体的なテーマ】
（1）スポーツイベント：日本のスポーツ史上の画期となる顕著な大会・事象
①国際大会
②国内大会
③JSC が管理・運営する競技施設に関するもの

（2）競技：伝統的な身体文化と近代スポーツ受容後の競技の発展を示すもの
①ルール（競技方法）の変遷がわかるもの
②用具・器具の変遷・発展がわかるもの（産業技術史の観点を含む）
③競技団体等のスポーツに関わる団体・組織の沿革や発展がわかるもの

（3）人物：日本のスポーツ史上注目される顕著な個人
①内外で顕著や記録・成績を残した選手及び指導者に関するもの
②我が国のスポーツの振興・発展に顕著な功績を残した功労者に関するもの

（4）デジタル情報：上記（1）～（3）を包含する要素
①スポーツ及び競技に関する写真、画像、映像など
②スポーツをめぐる科学的エビデンスとしてのデータ・情報
③スポーツと社会との関わりを示す情報（例えば、スポーツ文化や社会問題との関わり）

【保存に関する留意点】
・貴重な資料を恒久的に良好な状態で維持するために、温湿度管理や病虫害予防を徹底できる保存環境を整備する
・収蔵庫は、素材特性に応じて適切な温湿度の設定が可能なように、空調系統の異なる複数室を整備する
・資料群が持つ一体的な価値を損なわないように、統合性・完全性をできるだけ保ちながら、収蔵スペースを勘案し、包括的に保存する

（出典：秩父宮記念スポーツ博物館・図書館資料収集方針より抜粋、再構成）

■資料活用事業

・収蔵庫等の一部公開

・情報のデータベース化

資料の所在や保存状態の情報をデータベース化することにより、各館が資料の所蔵状況について情報共有できる環境を整備するとともに、相互の資料の利活用を促進

【データベースシステム整備の基本方針】

①スポーツに関する総合的なデータベースの構築

博物館の収蔵資料や、図書館の収蔵資料、記録等のスポーツ関連情報等を総合的に蓄積するデータベースを構築する。

②利用者にとって使いやすいデータベースの実現

膨大な量の情報を、利用者の要求深度に応じて、分かりやすく検索・閲覧できるようにする。

③情報発信機能の向上

インターネットを通じてデータベースを公開することで、館内外のパソコン端末や携帯端末等へ、いつでもどこでも情報を発信できるようにする。

④データベース管理業務の安定化、簡便化

データベースコンテンツの更新やネットワーク調整などの管理業務がセキュリティ性高く、安定的、簡便に行えるようにする。

⑤データベースの連携促進

より広範な情報を発信できるように、国内外のスポーツに関する博物館・図書館や研究機関等が構築する関連データベースとの連携も検討する。

・巡回展示

地方公共団体や民間の博物館等と連携することにより、新しいスポーツ博物館の資料を活用し、広く全国にスポーツの価値を伝える

・Web 等コンテンツ

Web 上でのバーチャルミュージアムの展開やメディア等での画像の積極的な公開を行う。来館できない方に対しても、資料に触れる機会を提供

・資料の精選

スポーツ博物館が所蔵してきた資料のうち、新たに策定する収集方針に沿わない資料や複数の他の機関が所有している資料等については、スポーツ関係の博物館・図書館・団体等のネットワークを活用するなどにより、当該資料の受入を希望する他の機関への移管・譲渡等を含め、再開館までに資料の精選を行う

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

■調査・研究事業

【調査・研究事業の基本方針】

①総合的な視野でのスポーツに関する調査・研究

・スポーツの歴史や技術、科学や文化、人物などに関する多様なテーマの調査・研究を行う。調査・研究の成果は、展示・公開事業、教育普及・交流事業に反映させるとともに、スポーツ関係情報として、機関誌またはインターネット等を介して公開する。

・展示等に活用する優先度の高い資料については「スポーツの多様な価値を伝える」という観点からより深い価値づけを行う。

・所蔵資料の調査にとどまらず、スポーツの文化やスポーツの価値を伝えていくためにどのような展示手法や運営が望ましいかについての調査研究も継続的に行う。

②関連機関とのネットワークの構築

・国内の博物館・図書館、専門機関、大学など、スポーツに関連する資料・図書や情報、人材等を有する施設・機関とネットワークを構築し、調査・研究をはじめ、資料収集や展示・公開、教育普及・交流などでの相互連携を広く行う。

・調査研究の基盤となる常勤の学芸員等を複数確保・配置した上で、研究者との共同研究、所蔵資料の調査に関する委嘱など外部専門家との協力体制を構築し、資料が持つ歴史的・社会的背景、個々のエピソードを踏まえたストーリー及びスポーツの価値を明らかにするための調査研究を継続的に行う。

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

■図書館事業

【基本方針】

①スポーツに関する図書資料の収集・保存

研究者やメディアなどが博物館資料やスポーツに関する史実等を調査するための研究用の資料として、また博物館の来館者が展示をより深く理解するための補完資料としての利用を想定。スポーツの分野に特化した図書館として、今後もスポーツに関する文献・資料等の収集を継続的に行う。また、所蔵図書を適切な環境で保存する。

②利用者層に応じた閲覧サービスの充実

スポーツを調査研究する専門家や学生、一般社会人および児童生徒等の幅広い利用ニーズに応じた閲覧スペース等の利用しやすい環境を整える。常勤の司書を配置し、レファレンスサービスの充実を図る。

③調査・研究と普及活動、交流事業の充実

所蔵資料をはじめ、スポーツ関連図書に関する調査・研究を多様なテーマで行い、成果を報告資料や展示で公開することで、スポーツの魅力を広く普及する。講座などの各種イベントの開催などを通し、多くの人々の学習を支援する。

④スポーツ博物館、その他施設との連携強化

調査・研究や展示・公開、教育普及・交流プログラムなどの諸活動において博物館資料と図書を横断的に活用する。博物館資料に関連する図書資料の紹介や、アスリートやスポーツ愛好家に対する読書や本の活用の意義、価値を伝えていくことにより、スポーツに関する図書館資料の積極的な活用を促すことを検討する。博物館と図書館の連携を図りやすく、なおかつ来館者が使いやすい空間配置を計画する。

他の施設（例えば飲食スペースやショップ等）との共同利用なども検討しながら、サービス内容を充実していく。

【サービスの構成要素】

①一般用開架・閲覧サービス

図書・雑誌および視聴覚資料を開架し、検索端末を備え、自由に閲覧できるようにする。

②レファレンスサービス

幅広い層の利用者からの相談に応じて、必要とする資料や情報を提供する。

③研究者支援サービス

研究者や専門家からの要望に応じて、専門的な図書・雑誌を閲覧できるようにし、調査・研究の支援を行う。

④教育普及サービス

利用者の学習活動や読書活動を促進するため、幼児から学生、一般を対象とした多様なテーマのおはなし会やブックトーク、講座・講演会等を開催する。

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

■教育普及事業

【教育普及・交流事業の基本方針】

①生涯学習の支援

幅広い利用者を対象としたスポーツ全般に関して理解を深める講座・講演会など

②学校等教育機関の支援

授業に対応した学習プログラム

③体験学習プログラムの開催

スポーツ体験や技術指導、展示解説、スタジアムツアーなど

④近隣施設との連携

⑤ボランティアや学生インターンシップ等の受入れと活用

【学校等教育機関との連携について】

①展示学習プログラム

資料展示の解説やスポーツ体験の指導、ワークシート配布など

②体験学習プログラム

スポーツに関する講座や工作会等

③学校等へのアウトリーチ活動

学校等に出向いてスポーツに関する出張講座／資料・図書を学校等に貸し出す

④博物館実習生の受け入れ

【具体例】

・スポーツと他分野を融合させた学びの機会の提供

スポーツ写真の撮影方法、スポーツと科学実験、スポーツマンガなどをテーマとしたワークショップ開催など

・多数の利用が見込める顧客の層やニーズに応じた特別なパッケージプログラムの提供

修学旅行生向けの学習・体験パッケージ、若手アスリート向けの上手な体の動かし方や健康・安全確保スキルのパッケージなど

・広く国民一般に対しホームページ・SNS 等を通じて情報提供する

・スポーツと社会をつなぐためのコミュニケーション・コーディネーション能力を備える「スポーツコミュニケータ」（仮称）の養成

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

■連携事業・国際交流事業

【連携・交流事業の考え方】

・各事業を通して、国内外の博物館・図書館、スポーツ関係団体、地方自治体、教育機関や学会、民間企業等と連携・交流し、ネットワークの拠点としての役割を果たす。

・海外のスポーツ関連機関等との情報交換・交流を積極的に行う。

・スポーツ博物館単体での活動だけではなく、国内外の他の博物館・図書館、スポーツ関係団体、地方自治体、大学や学会、民間企業との連携や交流を行う

・関係者間のネットワークの構築に寄与し、その拠点としての役割を果たしていくことを重要なミッションと位置付け、スポーツ関係資料を媒介として様々な交流を行う

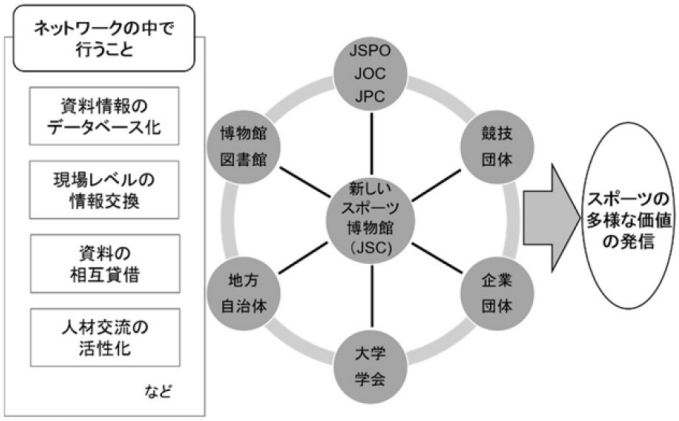


図 4 ： 関係者間のネットワークのイメージ

【国際交流事業の基本方針】

①展示・公開事業の交流

海外のスポーツに関する博物館・図書館等と、スポーツ資料の貸借や情報提供を積極的に行い、展示内容の充実を図る。

②スポーツ関連情報の交流

海外のスポーツに関する博物館・図書館等と、学術情報や出版物の交換等を推進する。

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

【資料の保存・活用等に関するネットワークの考え方】

・国及びスポーツ関係の博物館・図書館・団体等と連携し、多様なスポーツの価値を伝えることを目的とした全国規模の横断的なネットワークを構築

・これまでスポーツ博物館と連携・協力関係のあったスポーツ関係の博物館・図書館・団体等を中心にスタートし、連絡協議会等を設置して骨格となる機能や役割を整理

・各分野で中核となる機関（JSPO、JOC、JPC などのスポーツ団体、スポーツ関係資料を多数所有する体育系大学、オリンピック系博物館などとの連携、ネットワークを拡大・充実させる

・役割分担などネットワークの構築に向けた準備として、学会など外部の専門家と連携し、全国の関係施設におけるスポーツ関係資料の所蔵調査等を実施することにより、資料所有状況をあらかじめ把握

・資料の所在や保存状態の情報の共通データベース化、資料分類や整理方法などに関する現場レベルでの情報交換、資料の相互貸借、人材交流などを活性化させ、国全体としてスポーツ関係資料のアーカイブを充実・強化

【地元、地域や地方自治体、学校との交流の考え方】

・新しいスポーツ博物館が設置される場所の近隣施設、地元商店街、自治体、学校等との密接な連携（例）地元商店街との連携した割引制度、地元の学校向け特別企画など

・地方自治体や学校等との交流

JSC と地方自治体によるスポーツを通じた協働ネットワークである「JAPANSPORT NETWORK」の活用

（例）〇スポーツに関心のある地方の博物館・図書館等の職員の受入れによる人材育成への貢献と、地方でスポーツをテーマとした展示を増やすための支援

〇国内だけではなく、海外の博物館との貴重なスポーツ関係資料の相互貸借

（出典：スポーツ博物館将来構想より抜粋、再構成）

５．展示計画

５－１．展示の基本的な考え方

新しいスポーツ博物館の展示エリアは P12 に記載した通り、オープンギャラリーは約 135 ㎡、展示スペースは約 310 ㎡となります。限られた面積を有効に活用するため、スポーツ博物館ならではの特徴あるテーマに沿いつつ、展示資料や展示レイアウトの更新がしやすい、新しい展示スタイルの導入を図ります。

例えば、展示什器類をできるかぎり可動式とし、いくつかの展示物で構成する「展示ユニット」等により、柔軟に配置できる展開を検討します。

企画展示は、所蔵品を活用したものと、他機関等からの借用資料を含むもの、2 つの方向で展開することを検討します。

【展開イメージ（例)】

<table>
<tr><td>展示スペース
（約 310 ㎡）</td><td>パターン 1</td><td>パターン 2</td><td>パターン 3</td></tr>
<tr><td>ゾーン①
（約 100 ㎡）</td><td>常設展示</td><td>常設展示</td><td>常設展示</td></tr>
<tr><td>ゾーン②
（約 100 ㎡）</td><td rowspan="2">企画展示
（所蔵品を活用）</td><td rowspan="2">企画展示
（借用資料を含む）</td><td>企画展示
（所蔵品を活用）</td></tr>
<tr><td>ゾーン③
（約 100 ㎡）</td><td>ストックスペース
（什器収納等）</td></tr>
</table>

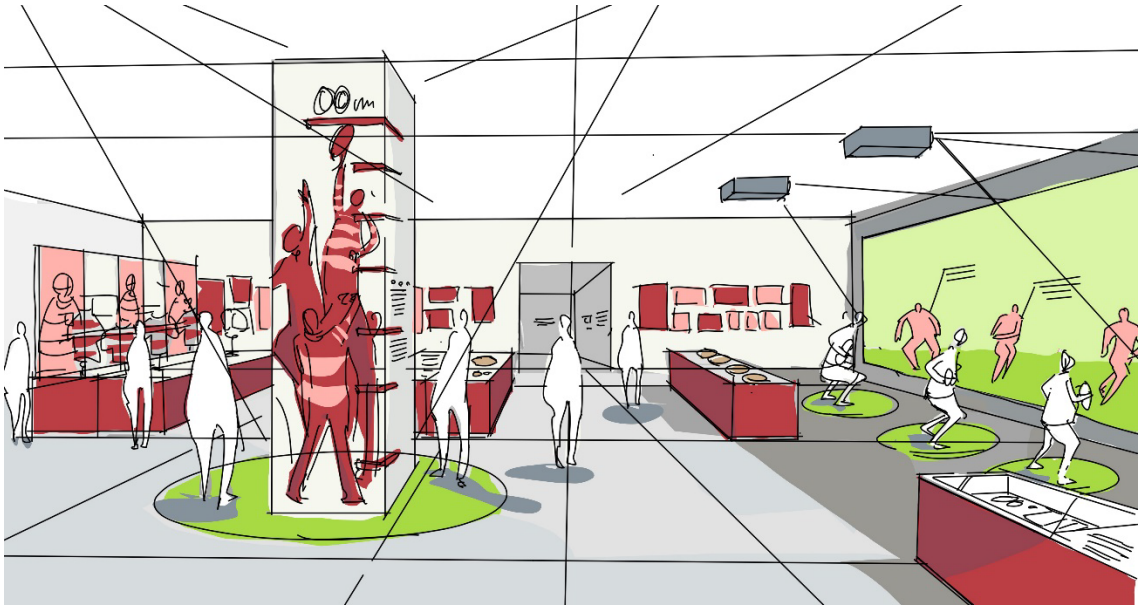
５－２　エントランス

エントランスからスポーツ博物館へと誘うアテンション機能として、スポーツの迫力やアスリートの身体能力等をイメージされるダイナミックなオブジェの設置、視覚効果の高いサインデザインの導入など、利用者をスポーツ博物館に誘導する仕掛けを施すとともに、来館にあたっての期待感を高めます。

５－3. オープンギャラリー

話題性のあるスポーツトピックのタイムリーな展示、ワークショップやイベント、レセプションの開催、また学校団体の集合スペースとしての活用等、柔軟に運用して集客を図ります。

【オープンギャラリー　空間活用イメージ】



※エントランス、オープンギャラリー、展示スペース等の位置関係については P.13 の各室位置関連図を参照

５－4. 展示スペース

（1）展示テーマ

新しいスポーツ博物館の展示構成は、これまでのように実物資料の展示を見て感じてもらう展示と、スポーツの特徴である「動」の特性を活かした展示（例えば映像や体験型の展示）を組み合わせるなど、スポーツの躍動感やスピード感、アスリートの身体能力の高さなどを効果的に伝える展示方法を検討するものとし、アナログ展示のみならず、スポーツの「動」を疑似体験できる VR や AR の活用、展示スペース内でスポーツを体験できる機器・装置の導入も視野に入れるものとします。

また、新しいスポーツ博物館内で行う展示だけでなく、スポーツ系博物館以外の博物館や図書館、その他の場所で行う展示を通じて、新しいスポーツ博物館そのものに来館できない方に対しても、資料に触れる機会を提供します。

① 常設展示

スポーツの基本的・普遍的な価値や、スポーツの価値の多様性について伝えるものとし、所蔵品を活用します。

【常設展示テーマ及び展示資料例】

・スポーツを愛された秩父宮様ゆかりの資料展示
・1964 年東京オリンピック・パラリンピック資料展示
・新秩父宮ラグビー場（仮称）内に位置する施設として、ラグビー関連資料展示
・近現代日本におけるスポーツ資料の展示　等

②企画展示

特定のテーマ（特に他分野との関わり）を取り上げながら、より深く詳細にスポーツの価値を伝える展示とし、一定期間で展示替えを実施します。

また、P.29 に記載した通り、企画展示には所蔵品を活用したものと、他機関等からの借用資料を含むもの、2 つの方向で展開を図ります。

企画展示において、スポーツを描いた映画やマンガ等を取り上げる等、企業協賛による展示も考えられることから、話題創出や集客に向けて企業協賛を視野に入れて検討します。

【企画展示テーマ及び展示資料例】

・所蔵品を活用した企画展示　：　スポーツを「する」「みる」「ささえる」
・他機関等からの借用資料を含む企画展示　：　映画やマンガの中のスポーツ
　：　アートやデザインとスポーツ
　：　スポーツと科学技術
　：　ご当地マラソンと地域活性化　等

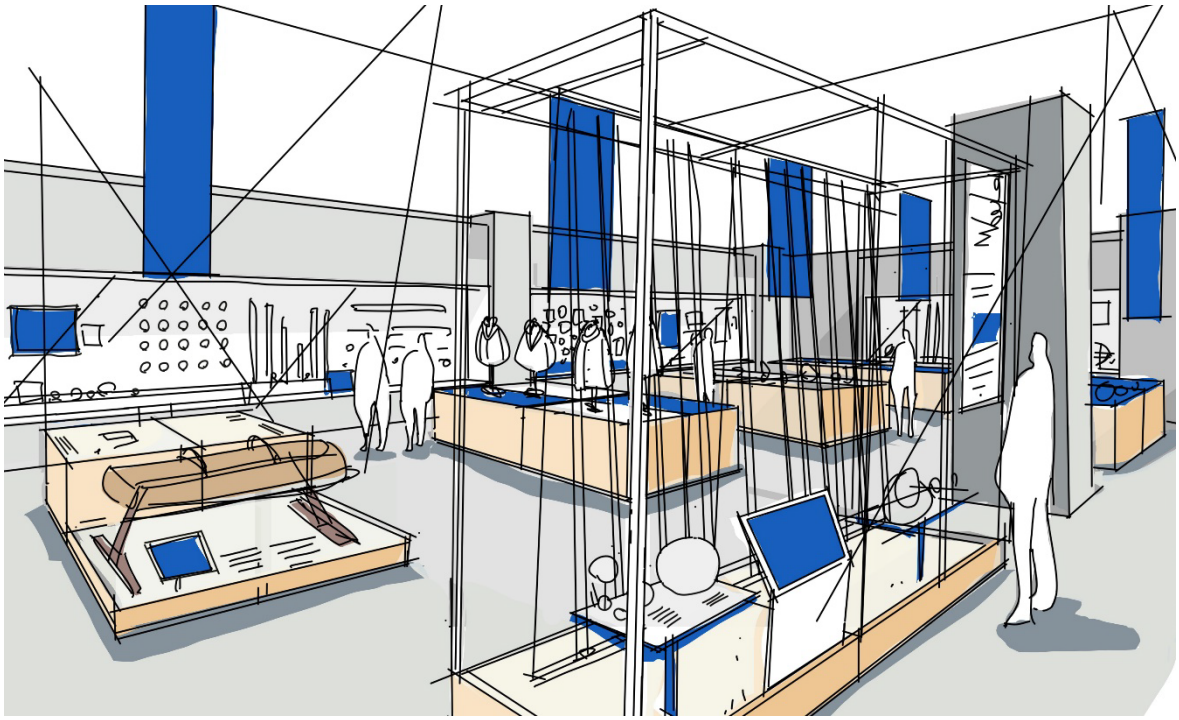
所蔵品を活用した企画展示例、“スポーツを「する」「みる」「ささえる」”をテーマとした場合、次ページのような展開が考えられます。スポーツ基本計画では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形での「スポーツ参画人口」を拡大し、 人々がスポーツの力で人生を楽しく健康で生き生きとしたものとし、活力ある社会と絆の強い世界を創るという「一億

総スポーツ社会」の実現が目指されており、スポーツ博物館の展示においても「する」「みる」「ささえる」の観点を盛り込んで検討することが考えられます。

【所蔵品を活用した企画展示の展開例】

大テーマ	展示ユニット	ストーリー	スポーツ基本計画との関連
1. スポーツ競技	用具の進化からみるスポーツ	競技ルールと用具の変化は密接に結びついている（例：槍）	する、ささえる
	シューズからみる	時代、競技ごとのシューズ、記録の変遷	する、ささえる
	道具からみる	時代、競技、大会、使用者の諸相についてみる（例：鞍馬等、競技用具）	する、ささえる
	練習からみる	練習用具等から、目的や競技の特性をみる	する、ささえる
2. スポーツとデザイン	ポスターからみる	競技、大会の諸相とデザインの変遷をみる	みる
	切手からみる	競技、大会の諸相とデザインの変遷をみる	みる
	衣装からみる	競技、式典別の衣装の諸相をみる	みる
	色彩からみる	色彩の選択に意味を持つスポーツ用具をみる	みる
3.スポーツと社会	マスコットからみる	競技、大会の諸相と社会的背景をみる	みる、ささえる
	美術作品からみる	日本、海外の芸術とスポーツの関係をみる（例：彫刻、絵画、メダル、杯、盾、バッジ、バックル等）	する、みる
	応援グッズからみる	時代の流行りものグッズの変遷をみる（例：キーホルダー、ちょうちん、たばこケース等）	みる、ささえる
4. スポーツ競技施設	図面からみる	「静」の図面から「動」を読み解く（例：図面、マップ、図示された案内等）	ささえる
	建築模型、設備資料からみる	スポーツを目的とする建築物の特性を読み解く（例：模型、写真等、国立競技場立ちトイレ等）	ささえる
5.スポーツと教育	教本からみる	スポーツの普及と教育についてみる（例：近代体育の成立に関する教本、坪井玄道 Outdoor games 等）	する、ささえる

【展示室　空間活用イメージ】



③協賛展示（特別展示）

基本的には民間企業等の経費負担により、民間企業の発想やノウハウ、最新のテクノロジーなどを活用した魅力ある展示を通してスポーツの価値を伝えます。

協賛展示を展開する場所として、展示スペースのみならずオープンギャラリーの積極的な活用を図ります。

【協賛展示テーマ及び展示資料例】

・スポーツ用具の最新テクノロジー

・アスリートの食事の歴史と変化　等

※スポーツ博物館将来構想より抜粋

（2）展示更新の考え方

展示更新については、企画展示スペース全体を入れ替えたり、あるいは展示資料の一部を入れ替えるなど、いくつかの方法があります。企画意図に応じて多様な更新方法が可能な展開を検討します。

①常設展示の更新

P.30 に記載されている常設展示の 4 つのテーマに沿って、展示ケース内の資料を入れ替え、なるべく多数の資料を一般に公開します。

②企画展示スペース全体の更新

企画展示を全体的に更新、多様な切り口での企画展示を展開します。

③企画展示の展示ユニットや展示資料の更新

企画展示の開催期間中に、展示ユニットごと更新したり、あるいは特定の資料を期間限定で公開し、企画展示の部分的な更新を行うなど、企画展示開催中におけるリピーター獲得や話題づくりに繋げます。

６．管理運営計画

６－１．管理運営の基本的な考え方

スポーツ博物館の維持管理業務は、「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業業務要求水準書」P.78 に掲載されている下記の方針に沿って行うものとします。

①事業者は、事業期間において「第２章．施設整備」に定める要求水準を適切に維持するとともに、長期的な耐久性が確保されるよう考慮し、利用者の安全、安心かつ快適な施設利用に資するよう、十分な実施体制により、適切に維持管理業務を実施すること。
②事業者は、スポーツ博物館の施設管理者と連携した維持管理業務を実施すること。スポーツ博物館も含めた施設全体の維持管理運営体制の構築のため、連絡調整会議等を事業者主体で設置し、定例会議を実施する。
③事業者の創意工夫やノウハウを活用し、合理的かつ効率的な業務を実施すること。
④事業期間中の光熱水費等の縮減の他、事業期間終了後の修繕費等の縮減を含め、長期的な経済性に配慮する。また、温室効果ガスの排出の抑制に関し、「政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の抑制等のため実行すべき措置について定める計画（平成 28 年 5 月 13 日 閣議決定）」を参考に取り組む。
⑤関係法令・技術基準等を遵守し、保全方法は予防保全を基本とすること。
⑥法令等により資格を必要とする業務の場合には、各有資格者を選任する。
⑦本書に記載のない事項については、国土交通大臣官房官庁営繕部監修の「建築保全業務共通仕様書」を参考とし、業務を実施すること。
⑧来場者の利便性の向上に資するよう、利用者のニーズを適切に把握して業務を実施する。
⑨来場者等の安全を確保するため、適切に危険防止等の措置を講ずる。
⑩適切に衛生環境を確保するとともに、来場者等の快適性の向上に資するよう業務を実施する。
⑪省エネルギー・省資源、ゴミの減量処理、再資源化をはじめとして環境負荷の低減に資するよう業務を実施する。

６－２．運営組織、体制

（１）運営体制及び形態

スポーツ博物館の運営は、原則としてJSCが行うこととし、JSC 内に新しいスポーツ博物館を所管する独立の部署を設置し、運営に必要な監督職員や専門職員等を適切に配置するとともに、JSC 内の他部署が持つネットワークの活用や取組の成果の発信拠点として博物館を活用するなど、他部署との連携を図ります。

公共性や社会的ニーズを踏まえつつ、資料の収集保存や調査研究、展示、教育普及の企画などの学芸業務は、JSC の職員が直接関与する体制とします。その上で、これまで以上に自由度や効率性を高めた事業を展開するため、展示の制作や運営、接客、広報や情報発信、施設管理などの分野については、民間企業等のノウハウを活用するため業務委託を検討します。

現在、建築設計が進行中である新秩父宮ラグビー場（仮称）全体の運営に関する調整については、施設整備の段階でJSCから事業者に対して必要な情報を提供するものとし、管理運営についてJSCと事業者が共同で行う業務は、緊急時の避難誘導業務及び防火管理業務が想定されています。

（２）運営人員等

博物館として求められる機能を十分果たすためには、収集保存、調査研究、教育普及などそれぞれの分野で中心となる専門性を持った常勤の職員が必要となります。日本で唯一の総合スポーツ博物館として求められる専門性を確保するため、常勤の学芸員、司書やその他の専門職員等を適切に配置し、体制の充実を図れるよう、国に協力を求めつつ取り組みます。

スポーツ博物館の持つ資料の価値やコンテンツの魅力を引き出し、それらを積極的に外部に対して情報発信することにより、スポーツ博物館の事業をより充実させていくため、渉外機能を担う職員を配置することを将来的に検討します。

また、スポーツ博物館の運営人員について、10名程度の人数が想定されています。

※スポーツ博物館将来構想、スポーツ博物館要求水準書より抜粋

６－３．各諸室の運用イメージ

室名	運用イメージ
エントランス	・一般の利用者用の出入り口 ・利用者をスポーツ博物館に誘導する視覚的効果のある仕掛けの設置 ・受付カウンター（有人）の設置による案内、誘導、安全管理 ・有料での展示やイベントに際しての料金徴収等
オープンギャラリー	・時事に応じたトピック展示（短期の企画展示） ・常設展示と連動した企画展示 ・ワークショップ、セミナー等の開催 ・レセプションの開催 ・民間事業との協賛展示等の開催 ・スタジアムツアーの出発点としても検討
展示スペース	・テーマに応じた所蔵品展示 ・他機関からの借用資料による展示 ・参加体験装置や映像装置等を活用した展示等
調査研究室	・学芸職員の調査研究活動に供する ・利用者の図書閲覧スペースとしても活用
事務室	・職員の事務スペース
収蔵庫	・所蔵資料を保管する ・収蔵用の什器を備える
前室	・収蔵庫の前室として温湿度の変化を緩衝する
書庫	・スポーツ関連書籍を保管する ・書籍収蔵用の書棚を備える
一時保管庫１	・展示スペースに隣接し、展示用什器及び備品の保管を行う
一時保管庫２	・他館等からの借用資料を一時保管する
荷捌き、 トラックヤード	・資料等のトラック移送の際に供する ・通常時はシャッターを閉じ、新秩父宮ラグビー場（仮称）と遮蔽する
空調機械室、 消火ガス設備室	・スポーツ博物館の空気調和設備の設置及び消火ガス設備を設置し、メンテナンス用の通路等を確保する

６－４．開館形態等

（１）開館期間等

スポーツ博物館の年間開館日数、開館時間等について下記の通り想定されています。

・開館時間：10：00～17：00（最終受付 16：00）
・定期休館日：平日週１日（祝日又は休日の場合翌平日休）
・特定休館日：年末年始（12/29～1/3 まで）
・不定期休館日：オープンギャラリー及び展示スペースにおける常設統合展のための展示替え期間５日／年（定期休館日１ 日含む。）
・燻蒸及びメンテナンス期間５日／年（定期休館日１ 日含む。）
・年間開館日数：297 日以上
・ピーク時の同時来館者数想定：80 名程度/時

※スポーツ博物館要求水準書より抜粋

（２）利用料金

スポーツ博物館の利用料金は有料化の方向とし、金額については今後の検討とします。

料金の徴収にあたり、有人での対応もしくは発券機や自動ゲートの設置などによる機械化とするか、運営方法との整合性を取りながら今後の検討を進めます。

（３）有料ゾーン、無料ゾーンの区分

有料ゾーンと無料ゾーンの区分については、利用者の動線を確保しつつ、管理運営のしやすい位置で区分することが望ましいため、今後の検討を経て決定するものとします。